Y. Takahashi, Akita Prefectural Museum, who kindly helped us in collecting materials.

References

Hirabayashi, H. 1974. Cytogeographic studies on *Dryopteris* of Japan, Hara Shobo, Tokyo. Mitui, K. 1965. Journ. Jap. Bot. **40**: 117-124. —— 1966. ibid. **41**: 270-276. —— 1968. Sci. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku, Sec. B. **13**: 285-333. —— 1971. Journ. Jap. Bot. **46**: 83-93. —— 1975. Bull. Nippon Dental Coll., Gener. Educ. No. 4, 221-271. Nakato, N. 1981. Journ. Jap. Bot. **56**: 200-205. ——, S. Masuyama & K. Mitui 1983. ibid. **58**: 195-205. Takei, M. 1974. Journ. Jap. Bot. **49**: 356-359. —— 1978. ibid. **53**: 87-91. —— 1982. Res. Bull. Fac. Educ., Oita Univ. **6**: 9-41.

* * * *

第1報でノキシノブの種内倍数体の関東地方における分布を調査し，主要なサイトタイプは2倍体 (2n=50)，4倍体 (2n=100)，高4倍体 (2n=102) であり，2倍体は温暖域に，4倍体と高4倍体はより寒冷域に分布することを報告した。今回，これらのサイトタイプの日本における分布を調査した。生材料の染色体観察のみでなく，胞子の大きさや表面模様が2倍体と4倍体群で異なるので，胞子の形質を使用して腊葉標本の倍数性も推定し，分布図を得た。その結果，2倍体は沖縄～関東地方，4倍体群は九州～東北地方に分布することが判明した。水平分布では重なりがみられるが，2倍体は温暖地域に，4倍体群は寒冷地域に分布することを確認した。また，分布の北限に近い東北地方では，染色体観察により，高4倍体が数多く分布していることがわかった。これは，高4倍体は4倍体よりもより寒冷な気候に適応していることを示している。また，4倍体群の起源に関して，2倍体の胞子形成時の染色体倍加によって，2倍体から直接4倍体が形成される可能性があること，さらにノキシノブ2倍体とナガオノキシノブ2倍体 (2n=52) の雑種がもとになって高4倍体が生じる可能性があることを指摘した。

□鄭英昊ほか10名：**韓国植物分類学史概説** 404pp. 1986. 図書出版, Seoul. 10,000Won. 管束植物，淡水藻類，淡水珪藻類，海洋植物プランクトン，海藻類，陸水学に分けてそれぞれの研究史が記述されている。管束植物の部分が約半分を占める。それぞれの章に詳細な文献リスト（管束植物では45頁約1000件）がついているので，韓国の植物研究を概観するのに有用である。全文韓語。 （金井弘夫）